

為せば成る

20日に野球部の全国大会壮行会を行いました。野球部の軌跡の映像を始め、吹奏楽部の演奏、男子バスケットボール部の全校を巻き込んだエール、ダンスも大きく雰囲気盛り上げ、キャプテンの決意表明は心地よい緊張感と高揚感に包まれた、しっかりした内容でした。私が贈ろうと考えた言葉は「為せば成る」です。

「為せば成る、為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の為さぬなりけり。」の冒頭の一説です。意味は、「行動すればできる、行動しなければ何もできない」。つまり、これが転じて「どんなことでも強い意志をもってやれば、必ず成就する。」の意味となりました。やる気の大切さ、それを行動に起こす大切さを説いたことばです。「為す」とは、行動をすること。何かの行為を行うこと。「成る」とは、何かを達成すること。成就すること。野球部は以前お話ししたように、細かなところをおろそかにしない日常生活を送ることがその強さを生み出していると思います。きっと「成る」。努力の結果を出して、成就し、多くのことを学んで帰って来るはずです。本当に楽しみです。

このことばは上杉鷹山(ようざん)という江戸時代後期、米沢藩の藩主(お殿様)のことばです。家臣に、「人が何かを成し遂げようという意志をもって行動すれば、何事も達成に向かうのである。ただ待っていて、何も行動を起こさなければ、よい結果には結びつかない。結果が得られないのは、人が成し遂げる意志をもって行動しないからだ」という歌を教訓として詠み与えたという話に由来します。

また、それ以前に武田信玄が「為せば成る、為さねば成らぬ。成る業を成らぬと捨つるは、愚かなことだ。」という歌を詠んでおり、上杉鷹山はこれを知っていて変えたと言われます。つまり、『何事も最後までやらなければ成功するはずがないのに、「できない」と言って簡単にあきらめるな』と叱咤激励したということですね。

皆さん、自分の夢に向かって、ただただ懸命に行動し続けること、それが成功、つまり、夢の実現を呼びます。人生一度きり、後悔しないように前を向いてしっかりと歩み続けましょう。応援しています。

3月11日は命について考える日です。私が、東日本大震災の被災地を歩いて感じた人生の教訓は、「幸せを後回しにしてはならない。」です。皆さんが受け継いだ命を大切に生きてゆくことを心から願います。感銘を受けた歌と書籍の一節を紹介します。

「父母もその父母もわが身なり われを愛せよ我を敬せよ」 二宮尊徳

あなたの命はあなた一人のものではない。父母、その父母と幾世代にもわたり、連綿と続いてきた命。その命の炎が一度も途切れることなく続いてきたからこそ、あなたの命がある。あなたの身体の中には幾百万、幾千万という先祖の連綿たる命の炎が燃えている。そういう尊い命の結晶が自分であることに深い思いをさせ、自分を愛し、自分を敬うような生き方をしなければならない。私たちが決して忘れてはならない人生の大則がここにある。

藤尾英昭「人生の大則」致知出版社より

【 大会結果および入賞 】

- ☆ 吹奏楽部 第50回兵庫県アンサンブルコンテスト西播地区大会
銀賞 管打5重奏
- 第51回兵庫県アンサンブルコンテスト西播地区大会
銀賞 管楽8重奏 西播吹奏楽連盟奨励賞
- ☆ 国語科 第44回たつの市新宮短歌俳句祭 短歌 学生の部
入選 竹野胡春 五島彩絢
- 第44回たつの市新宮短歌俳句祭 俳句 学生の部
入選 中津美晴
- ☆ 家族へ思いを届けようプロジェクト2022
兵庫県モラロジー協議会会長賞 出水哲嗣
兵庫県モラロジー協議会審査員賞 大下絢菜
兵庫県青少年団体連絡協議会賞 前田祐実

